

平成28年度教育研究活動報告書

氏名	平山直樹	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士（文学）（広島大学）	職位	准教授
専門分野	英語の歴史研究		
I 教育活動			
本年度担当科目			
	授業科目		
学部	TOEIC I TOEIC II 応用英語 I 応用英語 II 上級英語 I 上級英語 II		
大学院	英語学特論		
II 研究活動			
これまでの主な研究業績（5件まで）			
〈著書〉 〈展覧会〉 〈論文〉 〈翻訳〉 〈学会発表〉 〈学術表彰〉 〈その他〉			
（1）〈論文〉「『パストン家書簡集』における <i>please</i> 」、谷明信・尾崎久男編『15世紀の英語—文法からテキストへ—』、pp. 41-59、大阪洋書、2013年3月29日。			
（2）〈論文〉「『パストン家書簡集』におけるME THINKS」、尾道市立大学日本文学論叢第8号、pp. (1)-(18)、2012年12月。			
（3）〈論文〉「名詞節を導く <i>that</i> の省略について—『パストン家書簡集』におけるTHINK—『英語教育への新たな挑戦—英語教育内容学の視点から』、pp. 205-17、英宝社、2010年7月。			
（4）〈論文〉“Epistemic Adverbs in the Paston Letters,” <i>English Philology and Stylistics: A Festschrift for Professor Toshiro Tanaka</i> , Edited by Osamu Imahayashi and Hiroji Fukumoto, pp. 59-71, 溪水社, 2004年12月。			
（5）〈論文〉“The Language of Requests in the Paston Letters: The Grammaticalization and Subjectification of X PRAY Y,” 広島大学英文学会『英語英文学研究』第46巻, pp. 25-43, 2002年3月。			
本年度を含む過去3年間の研究業績			
〈著書〉 〈展覧会〉 〈論文〉 〈翻訳〉 〈学会発表〉 〈学術表彰〉 〈その他〉			
（1）〈論文〉“ <i>Think and Trow</i> in the <i>Paston Letters</i> ,” <i>Studies in Middle and Modern English: Synchronic Aspects</i> , 2017年（掲載予定（ページ数・出版社未定））。			
（2）〈学会発表〉「『パストン家書簡集』における義務の法助動詞— <i>shall</i> を中心に—」、日本英文学会中国四国支部第69回大会、於 愛媛大学、2016年10月29日。			
（3）〈論文〉「『パストン家書簡集』における <i>since</i> 」、『中尾佳行先生御退職記念 言葉で広がる知性と感性の世界—英語・英語教育の新地平を探る—』、pp. 141-154、溪水社、2016年5月20日。			
（4）〈学会発表〉「パストン家書簡集の接続詞 <i>that</i> 」、日本中世英語英文学会第31回西支部例会 於 福岡女子大学、2015年6月13日。			
現在の研究テーマ（3つまで）			
（1）『パストン家書簡集』における英語の歴史的研究			
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績）			
所属学会・所属団体 役職等			
日本英文学会、日本英文学会中国四国支部（編集補助：2013年4月1日～2016年3月31日）、日本中世英語英文学会（準備委員：2014年2月1日～2017年1月31日）、日本中世英語英文学会西支部（準備委員：2014年4月1日～2017年3月31日）、近代英語協会（事務局長：2015年10月1日～現在）、英語史研究会、英語コーパス学会、山口大学英語教育研究会（編集委員）、尾道市立大学日本文学会			
IV 社会活動			
1. 学外活動（本年度1年間の活動状況）			
（1）「英文学を語学的に読む—youとthouに着目して—」、尾道文学談話会第9回、於 尾道市立大学美術館、2016年12月5日。			